

天に昇〈のぼ〉った竜〈りゅう〉（西紀町）

むかし、坂本の福德貴〈ふくとくき〉寺に、たいへん立派〈りっぱ〉なお坊さんが住んでおられました。ある日の事、栗柄〈くりから〉の滝の宮に参り、お経〈きょう〉をあげておられると、一人の少女が、どこからともなくあらわれ、

「わたしは、このあたりに住んでいる者でございます。今、お経の声をきき、ここへ、まいりました。どうか、ありがたい、ありがたいお経をお聞かせください。」

と、頭を地につけて、たのみました。

お坊さんは、はじめはふしぎに思われましたが、この少女はきっと、何かの化〈ば〉けものだろう、と思われ、いうとおりに、

「それでは、いちばん、ありがたいお経をあげましょう。」

すると、まもなく、思ったとおり、少女の姿が、ぱっと消えたとたんに、一面、まっくらやみになりました。しばらくして、滝の方を見つめると、それは、それは、みごとな一匹の竜が、すうとあらわれ、

「わたしは、この滝に住む竜女〈りゅうじょ〉です。今のお経の力で天に昇〈のぼ〉ることができます。」

と、一枚のうろこを残して、天に昇っていきました。

